

2024年度 学科別授業科目一覧表（実務経験表記あり）

課程：工業専門課程

学科：情報処理科/システム運用コース

NO.	授業科目	学年	授業時間数	単位	必須・選択	講義・実習	実務経験
37	データベース演習Ⅰ	2	60	3	必修	実習	有
38	データベース演習Ⅱ	2	60	3	必修	実習	有
39	CCNA基礎Ⅰ	2	60	3	必修	実習	無
40	CCNA基礎Ⅱ	2	60	3	必修	実習	無
41	Java演習Ⅲ	2	60	3	必修	実習	有
42	C言語文法	2	30	2	選択	実習	無
43	C言語演習	2	60	3	選択	実習	無
44	サーバ構築	2	60	3	必修	実習	有
45	アプリケーション演習	2	60	3	必修	実習	有
46	セキュリティⅡ	2	30	2	必修	講義	有
47	LinuxⅠ	2	60	3	必修	実習	有
48	LinuxⅡ	2	60	3	必修	実習	有
49	LPIC/LinuC対策Ⅰ	2	30	2	必修	講義	有
50	LPIC/LinuC対策Ⅱ	2	30	2	必修	講義	有
51	データサイエンス	2	30	2	必修	講義	有
52	AI構築	2	60	4	選択	講義	有
53	卒業制作Ⅰ	2	60	3	必修	実習	有
54	卒業制作Ⅱ	2	30	2	選択	実習	有
55	Office実務Ⅱ	2	60	3	必修	実習	有
56	ITリテラシー	2	30	2	必修	講義	有
57	ITパスポート対策Ⅱ	2	30	2	必修	講義	無
58	セキュリティマネジメント対策Ⅲ	2	30	2	選択	講義	無
59	MOS対策Ⅲ	2	15	1	選択	実習	無
60	一般常識Ⅰ	2	30	2	必修	講義	無
61	一般常識Ⅱ	2	30	2	必修	講義	無
62	基礎英語Ⅱ	2	30	2	必修	講義	有
63	表現技法	2	30	2	必修	講義	無
64	体育実習Ⅱ	2	30	2	必修	実習	無

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	情報処理科/システム運用コース	2024	2年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	データベース演習 I	清野ひろし	有	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

SQLによるDB操作を使いこなせるようになること。DB操作のうち、テーブル操作（定義、挿入、更新、削除）技術を実習することによって理解する。

【講義概要】

各回ごとに説明～実習を行う。SQL文の使い方を学習する。

回	授業計画及び学習の内容
1	SQL概略、実習手順、射影と選択、whereの条件
2	whereの文字列検索(like)
3	計算式、as、集合関数
4	表示での並び替えorder
5	グルーピングgroup by
6	グルーピングgroup byでの条件having
7	表同士の結合（内部結合）
8	表同士の結合（外部結合）
9	サブクエリーの原理。exist
10	条件のany、all
11	表の定義、行の挿入、更新、削除
12	union、定数表示による集計
13	組込み関数
14	まとめ問題1
15	まとめ問題2

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	75%	0%	20%	5%	0%	100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

主に言語関係（C, java, pythonなど）、linux、データベースなどを担当する。

【教科書・参考文献】

特になし。必要な資料は配布する。

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム運用コース		2024		2年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門	必修	実習	データベース演習Ⅱ	石井眞木子	有	3単位 60時間	

【授業の到達目標及びテーマ】

小規模のデータベースシステムをいくつか作りながら段取りや手順を覚え、各オブジェクトの作り方、プロパティの設定を学ぶ。また、データ置換・現状把握型データベース、履歴蓄積型データベース、情報源が外部にあるデータベースの3パターンのテーブル設計を理解する

【講義概要】

データベース作りの基本となるテーブル、フォーム、クエリ、レポートの作成方法を学ぶ。さらに、VBAの作成を通してイベントプロシージャーについて学ぶ。

回	授業計画及び学習の内容
1	在庫管理データベースの作成（パターン1）：入庫管理、出庫管理の一連の流れを確認する
2	在庫管理データベースの作成（パターン2）：履歴蓄積型の入庫管理、出庫管理の一連の流れを確認する
3	在庫管理データベースの作成（パターン2）：出庫と入庫の履歴から月毎の商品別出庫状況がわかる月報を作成する
4	在庫管理データベースの作成（パターン3）：ADOを使って在庫テーブルを更新できる状態にする
5	物品管理データベースの作成（パターン1）：物品の貸出と返却を確認するデータベースを作成する
6	物品管理データベースの作成（パターン1）：フレーム内にボタンを作成し、物品探索機能を付け加える
7	実習試験1
8	物品管理データベースの作成（パターン2）：物品の貸出状況の履歴が把握できるデータベースを作成する
9	顧客管理データベースの作成（パターン1）：テーブルの構造に変化をつけ、より現実的なデータベースを作成する
10	顧客管理データベースの作成（パターン1）：前回作成したデータベースをもとに、データベースを変更する
11	顧客管理データベースの作成（パターン3）：顧客情報を、外部から差分だけ取り込む処理を作成する
12	物品管理データベースの作成（パターン2）：履歴を残す方法で、物品管理を行うデータベースを作成する
13	名刺管理データベースの作成（パターン1）：メニューフォームを作成し、より使い易いデータベースを作成する
14	漢字クイズの作成と応用
15	実習試験2

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%	20%				100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

電気メーカーのソフトウェア生産技術研究所においてシステム開発の上工程の自動化ツールの研究開発を行う。グループリーダー代理として、子会社との折衝を行う。

【教科書・参考文献】

参考文献 「Access マクロ & VBA プログラミング開発工房」 緒方典子著

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		情報処理科/システム運用コース	2024		2年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	CCNA基礎 I	菊池 靖	無	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

コンピュータネットワークが繋がる理由、仕組みと基本的なネットワーク機器の設定を習得する。

【講義概要】

ネットワークが繋がる仕組みを、OSI参照モデルをベースにして各階層ごとに働くプロトコルとその連携を知り、デバイスの設定に反映できるようにする。

回	授業計画及び学習の内容
1	CCNA試験とは・コンピュータネットワークとは・OSI参照モデル
2	PacketTracerの使い方・Ciscoデバイスの基本設定
3	IPアドレス・IPv6・ICMP
4	ルータとルーティング・ルータIFのアドレス設定・PCのアドレス設定
5	スタティックルーティング・デフォルトルートの設定
6	ルーティングプロトコル・ここまでの復習
7	中間試験
8	RIPの設定・デフォルトルートの伝播
9	2進数・サブネットワーク
10	VLSM・サブネットの設計・RIPv2
11	IPv6ルーティング
12	仮想端末接続・Ciscoデバイスのセキュリティ
13	データリンク層とイーサネット・シリアル回線
14	ここまでの復習
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	60%			40%		100%

(補足)
・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

大学・専門学校で情報系の授業を30年間担当。Cisco CCNA インストラクター資格を取得済み。

【教科書・参考文献】

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	情報処理科/システム運用コース	2024	2年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	CCNA基礎Ⅱ	菊池 靖	無	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

コンピュータネットワークが繋がる理由、仕組みと基本的なネットワーク機器の設定を習得する。

【講義概要】

ネットワークが繋がる仕組みを、OSI参照モデルをベースにして各階層ごとに働くプロトコルとその連携を知り、デバイスの設定に反映できるようにする。

回	授業計画及び学習の内容
1	Iの復習
2	スイッチとハブの動作の違い、MACアドレスとは、ARP
3	スイッチの基本コマンド-ホスト名やパスワード、IP・GW設定など
4	ポートセキュリティ
5	STP
6	ここまでの復習
7	中間試験
8	VLAN1
9	VLAN2, VLAN間ルーティング
10	ワイルドカードマスク、ACL1
11	ACL2
12	NAT
13	DHCP
14	ここまでの復習
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他()	合計
割合	60%			40%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

大学・専門学校で情報系の授業を30年間担当。Cisco CCNA インストラクター資格を取得済み。

【教科書・参考文献】

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム運用コース		2024		2年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門 必修	実習	Java演習Ⅲ		石井眞木子	有	3単位 60時間	

【授業の到達目標及びテーマ】

Java演習Ⅱに引き続き、クラスや敬称の基礎を復習し、例外処理を学ぶ。その後ボタンやチェックボックスなどのウィンドウ型アプリケーションのプログラム、クライアントシステムを学ぶ

【講義概要】

例外処理、ソケットプログラミングによるチャットプログラム、Swing、Runnableインタフェースの実装によるスレッドについての基礎から応用プログラムの作成を行う

回	授業計画及び学習の内容
1	Java演習Ⅱの復習： メソッド、コマンドライン引数、オーバーロード、クラス
2	継承の理解： 継承とオーバーライド、アクセス制御
3	ウィンドウ型アプリケーション： SwingのJframe
4	実装と仮想クラス： 仮想クラス、抽象クラス、インタフェース、実装
5	マウスイベントの実装： マウスイベント処理
6	Swingの部品操作： ボタン、テキスト入力、チェックボックス、ラジオボタン
7	マウスイベントの実装、Swingの部品操作の応用
8	テキストファイルの扱い： FileReader、FileWriter
9	Swingによるグラフィックの応用： JPanel、画像
10	キーボードの処理(KeyListenerのimplements)： スレッドとキー入力を行うプログラムの作成 その1
11	キーボードの処理(KeyListenerのimplements)： スレッドとキー入力を行うプログラムの作成 その2
12	イメージファイルの取扱い： 背景シーンとキャラクタを描画するプログラムの作成
13	例外処理の基礎： デフォルトの例外処理、それ以外のエラーメールの送信、エラーログの生成、強制終了
14	例外処理の応用： Stackのコンストラクタで配列領域を確保する部分での例外処理
15	ソケットプログラミング： クライアントシステムの簡単な例題を学ぶ

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%	20%				100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

電気メーカーのソフトウェア生産技術研究所においてシステム開発の上工程の自動化ツールの研究開発を行う。グループリーダー代理として、子会社との折衝を行う。

【教科書・参考文献】

なし

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	情報処理科/システム運用コース	2024	2年 通年		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 選択	実習	C言語文法	砂賀 勝己	無	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

C言語の文法について学習する。Javaを履修済みのため、Javaとの違いなどに触れながら進める。

【講義概要】

文法で学習したことを演習することで、さらに理解度を深める。

回	授業計画及び学習の内容
1	Javaとの違い、変数など
2	scanf関数、代入式、四則剰余演算に関する演習
3	基本的なfor命令、forの入れ子、インクリメント/デクリメント
4	基本的なif命令、ifの入れ子、elseif
5	初期値、条件、増分などのないfor・break
6	中間試験
7	一次元配列1(int)
8	一次元配列2(char)、(char配列による)文字列の取り扱い
9	ソートの手法、乱数
10	二次元配列
11	関数1(概要、戻り値のない関数)
12	関数2(戻り値のある関数)
13	ポインタ概要1
14	ポインタ概要2
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他()	合計
割合	80%			20%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

教員歴30年強。プログラム言語やネットワーク、サーバ系の授業を主に担当。
学内情シスのような業務も行っている。

【教科書・参考文献】

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	情報処理科/システム運用コース	2024	2年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 選択	実習	C言語演習	砂賀 勝己	無	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

C言語の文法について学習する。Javaを履修済みのため、Javaとの違いなどに触れながら進める。

【講義概要】

文法で学習したことを演習することで、さらに理解度を深める。

回	授業計画及び学習の内容
1	Javaとの違い、変数など
2	scanf関数、代入式、四則剰余演算に関する演習
3	基本的なfor命令、forの入れ子、インクリメント/デクリメント
4	基本的なif命令、ifの入れ子、elseif
5	初期値、条件、増分などのないfor・break
6	中間試験
7	一次元配列1(int)
8	一次元配列2(char)、(char配列による)文字列の取り扱い
9	ソートの手法、乱数
10	二次元配列
11	関数1(概要、戻り値のない関数)
12	関数2(戻り値のある関数)
13	ポインタ概要1
14	ポインタ概要2
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他()	合計
割合	80%			20%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

教員歴30年強。プログラム言語やネットワーク、サーバ系の授業を主に担当。
学内情シスのような業務も行っている。

【教科書・参考文献】

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象															
工業専門課程		情報処理科/システム運用コース		2024		2年 後期															
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数															
専門	必修	サーバ構築		砂賀 勝己	有	3単位 60時間															
【授業の到達目標及びテーマ】																					
社会ではとても多くのWindowsマシンが使われており、それをセキュアな状態に保つ、管理を行うためのスキルはとても重要である。本講座ではそのための基礎知識となるWindowsクライアント/サーバのセキュリティ設定に関する手法を取得することを目的とする。																					
【講義概要】																					
Windowサーバ/クライアント環境におけるセキュアなシステム構築の手法について学習する																					
回	授業計画及び学習の内容																				
1	Windowsドメイン、ワークグループ、Active Directory																				
2	ユーザとグループ-概要、ローカルとドメインでの違いなど																				
3	ドメインでのグループと組織単位の管理																				
4	NTFSアクセス権																				
5	共有アクセス権																				
6	共有フォルダの管理																				
7	グループポリシー1																				
8	グループポリシー2																				
9	グループポリシー3																				
10	EFS(暗号化ファイルシステム)、リモートでの管理																				
11	イベントログ、監査1																				
12	監査2																				
13	監査3																				
14	実技試験1																				
15	実技試験2																				
【成績評価方法】																					
<table border="1"><thead><tr><th>評価項目</th><th>試験・課題</th><th>小テスト</th><th>レポート</th><th>平常点</th><th>その他()</th><th>合計</th></tr></thead><tbody><tr><td>割合</td><td>80%</td><td></td><td></td><td>20%</td><td></td><td>100%</td></tr></tbody></table>								評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他()	合計	割合	80%			20%		100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他()	合計															
割合	80%			20%		100%															
(補足) <ul style="list-style-type: none">成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。レポートや自習課題は必ず提出すること。																					
【教員紹介】																					
教員歴30年強。プログラム言語やネットワーク、サーバ系の授業を主に担当。学内情シスのような業務も行っている。																					
【教科書・参考文献】																					

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム運用コース		2024		2年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門 必修	実習	アプリケーション演習		榎本博文	有	3単位 60時間	

【授業の到達目標及びテーマ】

情報デザインに関する入門的、実験的な実習演習を行う。
情報を正確に他者に「伝える」事を意識し、受け手の多様性になどにも配慮したコンテンツを作成を行う。

【講義概要】

Adobe社のアプリケーションを用いて基本的な操作方法を習得し、Web、DTP、動画制作の基礎を学ぶ。「伝わる資料」を効率よく作成するための手法を、基礎から応用まで幅広く学習し「伝える」表現の幅を広げる。

回	授業計画及び学習の内容
1	本講義の説明、自己紹介パネルの作成 (Illustrator)
2	デザイン基礎1 (Adobe Photoshop・Illustratorの基本機能説明)
3	ビットマップ画像とベクトル画像の違い。解像度の説明。
4	色のユニバーサルデザインとはなにか？色覚特性について理解する。
5	デザイン基礎2 (Adobe Photoshop・Illustrator実践練習) 印刷概論
6	デザイン基礎3 (Figma基本機能説明)
7	デザイン基礎4 (Webページのコンパデザイン作成)
8	Adobe Photoshop・Illustratorを利用した課題作成 I
9	Adobe Photoshop・Illustratorを利用した課題作成 II
10	動画基礎1 (Aftereffects Adobe Premiere Pro の基本説明)
11	動画基礎2 (Aftereffectsの演習)
12	動画基礎3 (Adobe Premiere Proの演習)
13	課題の講評、プレゼンテーション発表①
14	課題の講評、プレゼンテーション発表②
15	課題の講評、プレゼンテーション発表③

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	課題レポート	平常点	その他 ()	合計
割合	50%			50%		100%

(補足)
・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

ウェブ制作会社・代理店などでウェブデザイナー、プロジェクトマネージャーなど業務に従事。

【教科書・参考文献】

Adobe公式サイトおよびプリント配布など

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	情報処理科/システム運用コース	2024	2年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	講義	セキュリティⅡ	久良知 眞紀子	有	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

情報セキュリティマネジメント試験の午前・午後問題分野について、要点確認と問題演習を行う。

【講義概要】

教科書の単元に沿って解説する。毎回、授業の最後に、その日の授業の範囲から出題した小テストを行う。

回	授業計画及び学習の内容
1	情報セキュリティ全般：単元01 情報セキュリティ
2	情報セキュリティ全般：単元02 マルウェア、単元03 パスワードの不正入手/不正利用、
3	情報セキュリティ全般：単元04 Webサイト利用者への攻撃、単元05 サービスの妨害/悪用、
4	情報セキュリティ全般：単元06 人的脅威、単元07 物理的脅威/その他の脅威、
5	情報セキュリティ全般：単元08 暗号化技術、単元09 認証技術
6	情報セキュリティ全般：単元10 デジタル署名
7	中間試験
8	情報セキュリティ対策：単元11 マルウェア対策、単元12 不正アクセス対策
9	情報セキュリティ対策：単元13ネットワークセキュリティ、単元14情報漏えい対策
10	情報セキュリティ対策：単元15その他のセキュリティ対策
11	情報セキュリティ管理：単元16 情報セキュリティマネジメント、単元17 ISMS
12	情報セキュリティ管理：単元18 リスクマネジメント、単元19 情報セキュリティインシデント管理
13	情報セキュリティ関連法規：単元20 情報セキュリティ関連法規
14	総合問題
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%			20%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

① 銀行でシステム開発 (2年) ②ソフトウェア開発会社でシステム開発 (2年) ③起業し、システム開発、教育、翻訳、テクニカルライティング (20年)

【教科書・参考文献】

情報セキュマネ試験 要点&問題集 (インフォテックサーブ)

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	情報処理科/システム運用コース	2024	2年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	Linux I	鈴木俊	有	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

Linuxの利用に必要な基礎知識と基本操作方法（ファイル操作からシステム管理まで）を習得することを目標とする。

【講義概要】

各回、テーマに沿った演習（実機コマンド操作）を実施する。講義内での演習の作業証跡（ログや画面キャプチャ）を提出課題（平常点）とする。また、復習としての自習課題（レポート）も提出とする。

回	授業計画及び学習の内容
1	Linuxのインストール
2	Linuxのコマンドライン操作の基本（ファイル操作）①
3	Linuxのコマンドライン操作の基本（ファイル操作）②
4	シェルのメタキャラクタ
5	標準入出力とリダイレクト
6	viエディタ
7	中間試験
8	パイプラインと grep コマンド
9	ユーザーとグループの管理
10	所有者管理とアクセス権
11	パッケージ管理
12	デバイスとファイルシステム
13	シェルスクリプト
14	バックアップとジョブスケジューリング
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	40%		20%	40%		100%

（補足）

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

金融、通信キャリアの構築・運用業務に、インフラ（NW、サーバー）エンジニアとして従事
携帯電話会社のメールシステム構築業務、金融会社のシステム設計・構築業務、等

【教科書・参考文献】

Linux I（ベーシック）

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		情報処理科/システム運用コース	2024		2年 後期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	Linux II	鈴木俊	有	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

WebサーバーやDNSサーバーをはじめとする各種Linuxサーバーの構築技術の基本の習得、また、サーバー公開時におけるセキュリティ知識の基本の習得を目標とする。

【講義概要】

各回、テーマに沿った演習（実機コマンド操作）を実施する。講義内での演習の作業証跡（ログや画面キャプチャ）を提出課題（平常点）とする。また、復習としての自習課題（レポート）も提出とする。

回	授業計画及び学習の内容
1	Linuxのインストール
2	ネットワーク設定
3	Webサーバーの構築（Apache Webページの公開設定）
4	Webサーバーの構築（Apache 設定変更）
5	Webサーバーの構築（Apache 認証設定）
6	Webサーバーの構築（Apache PHPとMariaDBの連携）
7	中間試験
8	ファイルサーバーの構築（ftpクライアントコマンドの利用）
9	ファイルサーバーの構築（vsftpdの設定変更）
10	DNSサーバー（BIND）の構築
11	メールサーバーの構築（Postfixの利用）
12	メールサーバーの構築（DNSサーバーとの連携、Dovecotの利用）
13	SSHの公開鍵・秘密鍵認証
14	ファイアウォールの設定
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	40%		20%	40%		100%

（補足）

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

金融、通信キャリアの構築・運用業務に、インフラ（NW、サーバー）エンジニアとして従事
携帯電話会社のメールシステム構築業務、金融会社のシステム設計・構築業務、等

【教科書・参考文献】

Linux II（サーバー&セキュリティ）

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	情報処理科/システム運用コース	2024	2年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	講義	LPIC/LinuC対策 I	太田 和也	有	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

Linux Essentialsを取得する

【講義概要】

CentOSの基本的な操作を習得していることを前提として、Linux Essentials試験対策に特化した知識の整理を行う。

回	授業計画及び学習の内容
1	パス、ユーザ、コマンドの基本書式
2	シェル変数と環境変数
3	ファイルとディレクトリの操作
4	テキストファイルの操作
5	アーカイブの作成展開、圧縮と解凍、テキストエディタvi
6	ここまでの復習
7	中間試験
8	スクリプトの基本
9	ハードディスク、各種ディレクトリの役割
10	ネットワーク基礎
11	ユーザとグループの管理
12	パーミッション設定、Linuxのアプリケーション
13	Linuxのディストリビューションとライセンス
14	ここまでの復習
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	100%					100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

独立系IT企業にて、アンチウイルス製品のプリセールスおよび製品導入作業、サーバの設計、構築、保守に従事。

【教科書・参考文献】

教科書：JMAM Linux Essentials合格テキスト&問題集

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	情報処理科/システム運用コース	2024	2年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	講義	LPIC/LinuC対策Ⅱ	太田 和也	有	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

LPIC101取得を目標とする。

【講義概要】

LPIC101試験に合格するのに必要な知識について、優先度をつけて紹介する。また、Linuxのしくみなど理解が困難な内容について解説する。

回	授業計画及び学習の内容
1	絶対パス、相対パス、Linux内のディレクトリ構造についてのおさらい
2	主要なファイル操作・編集系コマンドの確認と紹介
3	パイプとリダイレクト
4	正規表現に関わるコマンド、viエディタの操作
5	アーカイブファイルと圧縮・展開
6	これまでの学習範囲に対応する問題演習
7	中間試験
8	ファイルのアクセス権、所有者・所有グループの設定管理
9	リンクとプロセスの管理
10	パーティションとファイルシステム、マウント
11	Linux起動の流れ
12	パッケージの管理
13	その他LPIC101で出題される事項の解説
14	これまでの学習範囲に対応する問題演習
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	100%					100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

独立系IT企業にて、アンチウイルス製品のプリセールスおよび製品導入作業、サーバの設計、構築、保守に従事。

【教科書・参考文献】

翔泳社「LPICレベル1 version5.0対応」

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム運用コース		2024		2年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門 必修	講義	データサイエンス		吉田雅裕	有	2単位 30時間	

【授業の到達目標及びテーマ】

Excelを用いたデータクレンジングの方法、データの正しい読み方、統計的手法を用いたデータ分析をできるようになる。実際のビッグデータに対して、データサイエンスの各種手法を適用できるようになる。

【講義概要】

ビッグデータの利活用が必須化している現代において、実際に大量のデータに接し、それを加工・分析・可視化するスキルが極めて重要となる。本講義では、Microsoft社の表計算ソフト『Excel』を用いて、演習を中心とした授業内容により、データサイエンスの基礎技術を習得する。

回	授業計画及び学習の内容
1	イントロダクション
2	データサイエンスのプロセス
3	データ収集①（公開データ）
4	データ収集②（アンケート調査）
5	データクレンジング
6	データ集計
7	データ可視化
8	統計学基礎
9	統計的推定
10	統計的検定
11	連関分析
12	相関分析
13	データサイエンス演習①
14	データサイエンス演習②
15	データサイエンス演習③

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合			100%			100%

（補足）

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

1985年生まれ。山口県出身。東京大学大学院博士課程修了。博士(学際情報学)。日本学術振興会特別研究員を経て、2013年に日本電信電話株式会社に入社。5Gと自動運転に関する研究開発を経て、現在、中央大学国際情報学部准教授。コンピュータネットワークとAIに関する研究教育活動に従事。

【教科書・参考文献】

参考文献：吉田雅裕，『Pythonで学ぶはじめてのデータサイエンス』，技術評論社，2023

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム運用コース		2024		2年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門 選択	講義	AI構築		吉田 雅裕	有	4単位 60時間	

【授業の到達目標及びテーマ】

情報社会が抱える諸問題を多角的に分析・解明した上で、その問題の解決策を論理的に構築するために有用なデータマイニングの基礎技術の習得を目指す。実社会のビッグデータを対象に、データクレンジングの方法やAIの適用方法を学習し、データマイニングによって得られる結果を正しく理解するための論理的思考力を身に着ける。例として、身近な医療や保健のデータ、電子メールのデータ、スーパーマーケットの商品販売履歴などのデータを学習に利用する。日ごろ直感的に感じていることと、データマイニングでわかることを比較し、データマイニングに関するより深い理解を得る。

Pythonを使って、実際にデータマイニングを行うための具体的な方法論を習得する。Pythonを使って実際のビッグデータに対して基礎的な分析ができるようになる。データ分析結果の正しさを判断し、データサイエンスで論理的な主張を行えるようになる。

【講義概要】

膨大な非構造化データ、いわゆるビッグデータから、何らかの知見を導き出すデータマイニングについて学修する。連関規則、決定木、クラスタ分析、回帰分析、自己組織化マップ、ニューラルネットなどについて学び、ツールを用いることによっていわゆるAI（弱いAI）を活用することができる水準の技術を獲得する。機械学習についても、教師あり学習、教師なし学習、強化学習の特徴を把握し、自らが行う問題解決に際して、適切な方法を選択できる力量を養う。本講義では、プログラミング言語『Python』を用いたデータマイニングを行う。演習を中心とした授業内容により、データマイニングとAIの基礎技術を学習する。

回	授業計画及び学習の内容
1	イントロダクション
2	Pythonプログラミング
3	データ収集
4	データ前処理
5	確率統計
6	統計的検定
7	A/Bテスト
8	アルゴリズム
9	回帰
10	分類
11	クラスタリング
12	レコメンド
13	時系列分析、自然言語処理
14	画像分析
15	データ分析コンペ

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合			100%			100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

1985年生まれ。山口県出身。東京大学大学院博士課程修了。博士(学際情報学)。日本学術振興会特別研究員を経て、2013年に日本電信電話株式会社に入社。5Gと自動運転に関する研究開発を経て、現在、中央大学国際情報学部准教授。コンピュータネットワークとAIに関する研究教育活動に従事。

【教科書・参考文献】

吉田雅裕, 『Pythonで学ぶはじめてのデータサイエンス』, 技術評論社, 2023

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		情報処理科/システム運用コース	2024		2年 後期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	卒業制作 I	石井眞木子	有	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

当校に入学後1年半に渡って学んできたプログラミングの知識、技術の総決算として、それなりの規模を持った制作を行う。2～3人のグループを作り、グループで成果を出すために各学生の役割分担、スケジュール管理を行い、協働して作業するグループワークを学ぶ。

【講義概要】

原則グループワークを前提として、リーダーを中心に作業を進めるためのスケジュール管理、プロジェクト管理について指導する。また、卒業制作発表会および中間発表のためのスライドの作成方法、発表の仕方について説明する。

回	授業計画及び学習の内容
1	グループ決めを行い、各グループで何を作るか相談する。グループリーダーおよび各学生の役割を決める
2	市場調査の説明と実施、アンケートの作成
3	卒業論文の書き方の説明、卒業制作のグループ作業の進捗指導
4	第1回卒業制作中間発表の準備： 中間発表のための配布資料とプレゼンテーション用スライドの作成
5	第1回卒業制作中間発表【学園祭期間】
6	卒業制作のグループ作業の進捗指導
7	卒業制作のグループ作業の進捗指導
8	卒業制作のグループ作業の進捗指導
9	第2回卒業制作中間発表の準備： 中間発表のための配布資料とプレゼンテーション用スライドの作成
10	第2回卒業制作中間発表
11	卒業制作のグループ作業の進捗指導、卒業論文の作成指導
12	卒業制作のグループ作業の進捗指導、卒業論文の作成指導
13	卒業制作発表の準備： 卒業制作発表のための配布資料とプレゼンテーション用スライドの作成
14	卒業制作発表のためのリハーサル
15	卒業制作発表

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（発表）	合計
割合	60%		20%		20%	100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

電気メーカーのソフトウェア生産技術研究所においてシステム開発の上工程の自動化ツールの研究開発を行う。グループリーダー代理として、子会社との折衝を行う。

【教科書・参考文献】

なし

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		情報処理科/システム運用コース	2024		2年 後期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 選択	実習	卒業制作Ⅱ	石井眞木子	有	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

当校に入学後1年半に渡って学んできたプログラミングの知識、技術の総決算として、それなりの規模を持った制作を行う。2～3人のグループを作り、グループで成果を出すために各学生の役割分担、スケジュール管理を行い、協働して作業するグループワークを学ぶ。

【講義概要】

原則グループワークを前提として、リーダーを中心に作業を進めるためのスケジュール管理、プロジェクト管理について指導する。また、卒業制作発表会および中間発表のためのスライドの作成方法、発表の仕方について説明する。

回	授業計画及び学習の内容
1	グループ決めを行い、各グループで何を作るか相談する。グループリーダーおよび各学生の役割を決める
2	市場調査の説明と実施、アンケートの作成
3	卒業論文の書き方の説明、卒業制作のグループ作業の進捗指導
4	第1回卒業制作中間発表の準備： 中間発表のための配布資料とプレゼンテーション用スライドの作成
5	第1回卒業制作中間発表【学園祭期間】
6	卒業制作のグループ作業の進捗指導
7	卒業制作のグループ作業の進捗指導
8	卒業制作のグループ作業の進捗指導
9	第2回卒業制作中間発表の準備： 中間発表のための配布資料とプレゼンテーション用スライドの作成
10	第2回卒業制作中間発表
11	卒業制作のグループ作業の進捗指導、卒業論文の作成指導
12	卒業制作のグループ作業の進捗指導、卒業論文の作成指導
13	卒業制作発表の準備： 卒業制作発表のための配布資料とプレゼンテーション用スライドの作成
14	卒業制作発表のためのリハーサル
15	卒業制作発表

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（発表）	合計
割合	60%		20%		20%	100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

電気メーカーのソフトウェア生産技術研究所においてシステム開発の上工程の自動化ツールの研究開発を行う。グループリーダー代理として、子会社との折衝を行う。

【教科書・参考文献】

なし

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度	履修対象
工業専門課程		情報処理科/システム運用コース	2024	2年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験
基礎専門 必修	実習	Office実務Ⅱ	佐藤 薫	有
単位・時間数				
3単位 60時間				

【授業の到達目標及びテーマ】

Office (Word、Excel、PowerPoint) の基本操作を定着し、さらに応用機能を習得してスキルアップを目指す。いろいろな種類の文書を作成する能力を身に付け、業務に対応できるよう応用力を付けることが目標。

【講義概要】

ExcelとWordはビジネスシーンを想定した課題を作成する。PowerPointはプレゼンテーション作成から発表ツールの機能までを学ぶ。教科書 (Excel) 以外の内容は補足資料を配布。どの課題も文書の目的を意識して作成に取り組み、最後に印刷プレビュー等で仕上がりを確認してから提出すること。修正点がある課題は修正して必ず再提出すること。

回	授業計画及び学習の内容
1	Excel (関数の複合的利用、データベース関数) / Word (定型のビジネス文書の作成)
2	Excel (2019からの新しい関数 IFS, SWITCH, TEXTJOIN) / Word (複数の表のある文書の作成)
3	Excel第1章 (売上日報、売上実績表) / Word (既存の文書を編集して別文書に仕上げる)
4	Excel第1章 (時間帯別客単価表、仕入れ予定表) / Word (長文作成と編集、スタイル、目次)
5	Excel第2章 (在庫棚卸表、販売店別売上表) / Word (長文作成と編集、アウトライン、図表番号、図表目次)
6	Excel第2章 (売上成績比較、アンケート集計表) / Word (ビジュアルな文書作成、画像、テキストボックス、ページ罫線)
7	Excel第2章 (顧客別売上集計表、経費集計表) / PowerPoint (プレゼンテーションの作成、書式設定、レイアウト、デザイン)
8	PowerPoint (プレゼンテーションの編集、アニメーション、マスターの利用、リハーサル、発表者ツール)
9	Excel第3章 (売上高推移グラフ、問い合わせ件数推移グラフ、構成比グラフ) / Word (外部データの利用、差し込み印刷)
10	Excel第3章 (複合グラフ、ゴールシーク) / Word (共同作業で役立つ機能、コメント、変更履歴の記録)
11	Excel第5章 (社員名簿、宿泊施設一覧、売上台帳) / Office全般 (パスワード設定、プロパティ設定、ドキュメント検査)
12	Excel第4章 (受注一覧、発注一覧、請求書作成マクロ、書式設定マクロ)
13	Excel (VBAの基礎)
14	まとめ
15	まとめ

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ()	合計
割合	80%			20%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

専門学校でOffice系の科目、派遣会社で企業向けのOffice研修を担当。MOSやOffice関連の書籍の執筆も担当。

【教科書・参考文献】

- ・30時間でマスター Excel2019 (実教出版) ※1年次に使用したもの
- ・Excel2019 ビジネス活用ドリル (日経BP)

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		情報処理科/システム運用コース	2024		2年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
基礎専門 必修	講義	ITリテラシー	石井眞木子	有	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

論理的クイズ、ビジネスメールを題材にして、ロジカルシンキングとロジカルライティングの技術を学び、それにより、ロジカルコミュニケーション力を身につける。また、作業はグループワークを通して行うことによって他者とのコミュニケーションを学ぶことに繋げる。

【講義概要】

論理的クイズをグループワークの題材とする。また、ビジネスメールを用いて伝わるメッセージの大前提である「導入部⇒本論⇒結び」という流れを学び、伝わり難いサンプルメールをグループワークによって伝わりやすい改定メールに変更する。

回	授業計画及び学習の内容
1	講義の説明、オリエンテーション、グループワークの注意事項、論理的思考ワーク1
2	ビジネスメールを伝わるメッセージにするために、基本の型と5つのチェックポイントを理解する。
3	グループワーク1 メールをテーマを質問の形にして「期待する反応」を考える。論理的ワーク2
4	グループワーク2 メールをテーマを質問の形にして「期待する反応」を考える。論理的ワーク3
5	グループワーク3 メールをテーマを質問の形にして「期待する反応」を考える。論理的ワーク4
6	メッセージを ①導入部⇒②本論⇒③結びの3つのセッションに分けて構成する方法を学ぶ
7	グループワーク4 メッセージの導入部を作成する。論理的ワーク5
8	グループワーク5 メッセージの導入部を作成する。論理的ワーク6
9	グループワーク6 メッセージの本論を作成する。論理的ワーク7
10	グループワーク7 メッセージの本論を作成する。論理的ワーク8
11	視覚化によってメッセージが速く正確に伝わる書き方を工夫する
12	グループワーク8 メッセージの本論を視覚化する。論理的ワーク9
13	正確さと相手に好印象を与える日本語表現のために「具体性」「簡潔さ」「論理性」「好感度」の4点を学ぶ
14	グループワーク9 メッセージを完成させる。論理的ワーク10
15	グループワーク10 メッセージを完成させる。論理的ワーク11

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合			50%	50%		100%

- (補足)
- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
 - ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
 - ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

担任業務の学生の生活指導、就職支援のために研鑽を積み産業カウンセラー、国家資格のキャリアコンサルタントの資格を取得し、学生のキャリア支援に勤しむ。

【教科書・参考文献】

ロジカルシンキング練習帳

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	情報処理科/システム運用コース	2024	2年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
基礎専門 必修	講義	ITパスポート対策Ⅱ	成田与志子	無	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

ITパスポート試験合格を目標とする

【講義概要】

ITパスポート試験の対策を行う。用語と問題を理解し、合格を目指す。

回	授業計画及び学習の内容
1	疑似言語 記述の規則
2	疑似言語 プログラムの読み方
3	マネジメント 開発技術。 過去問練習
4	マネジメント プロジェクトマネジメント。 過去問練習
5	マネジメント サービスマネジメント。 過去問練習
6	ITパスポート 令和3年過去問題の解説
7	中間試験対策
8	テクノロジー 基礎理論。 過去問練習
9	テクノロジー 技術要素。 過去問練習
10	テクノロジー コンピュータシステム。 過去問練習
11	ストラテジ 経営戦略。 過去問練習
12	ストラテジ 企業と法務。 過去問練習
13	ストラテジ システム戦略。 過去問練習
14	ITパスポート 令和5年過去問題の解説
15	期末試験対策

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	60%	20%		20%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

実務経験なし

【教科書・参考文献】

令和5年度秋期 ITパスポート過去問題集 間久保 恭子著

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度	履修対象
工業専門課程		情報処理科/システム運用コース	2024	2年 後期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験
基礎専門 選択	講義	セキュリティマネジメント対策Ⅲ	外部企業より派遣	無
単位・時間数				
2単位 30時間				

【授業の到達目標及びテーマ】

国家試験 情報セキュリティマネジメント の試験対策講座。
原則として本試験の受験をすることを受講条件とする。

【講義概要】

半期に一度集中講義の形で開講。
社会人向けに資格対策講座を実施している教育ベンダと提携し、講師を派遣してもらい講義を行う。
Iと同じ内容だが、I受講者で資格未取得者は再度受講ができる。

回	授業計画及び学習の内容
1	
2	① 「情報セキュリティマネジメント試験の概要」
3	・ 出題傾向と学習方法
4	② 「情報セキュリティ全般」
5	・ 情報セキュリティの概念、マルウェア、パスワードの不正入手/不正利用
6	③ 「情報セキュリティ全般」
7	・ Webサイト利用者への攻撃、サービスの妨害/悪用、人的脅威/物理的脅威/その他の脅威
8	④ 「情報セキュリティ全般」
9	・ 暗号化技術/認証技術、デジタル署名
10	⑤ 「情報セキュリティ対策」
11	・ マルウェア対策、不正アクセス対策
12	⑥ 「情報セキュリティ対策」
13	・ ネットワークセキュリティ、情報漏えい対策、その他のセキュリティ対策
14	⑦ 「情報セキュリティ管理」
15	・ 情報セキュリティマネジメント、ISMS、リスクマネジメント
	⑧ 「情報セキュリティ管理」
	・ 情報セキュリティインシデント管理
	⑨ 「情報セキュリティ関連法規」
	・ 情報セキュリティ関連法規

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ()	合計
割合				100%		100%

(補足)
・ 成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
・ 原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・ レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

【教科書・参考文献】

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	情報処理科/システム運用コース	2024	2年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
基礎専門 選択	実習	MOS対策Ⅲ	砂賀 勝己	無	1単位 15時間

【授業の到達目標及びテーマ】

マイクロソフトMOS資格の対策講座。
原則として資格試験の受験を目指すことを受講条件とする。

【講義概要】

模擬試験ソフトを使用し、繰り返し練習を行う

回	授業計画及び学習の内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	模擬問題ソフトを繰り返し練習し、ランダム出題で80%以上の点数取得を目指す。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合				100%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

教員歴30年強. プログラム言語やネットワーク、サーバ系の授業を主に担当。
学内情シスのような業務も行っている。

【教科書・参考文献】

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度	履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム運用コース	2024	2年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
一般教育 必修	講義	一般常識 I	唐戸 民雄	無	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

基本的な計算力、一般的な漢字の読み、社会科系統・理科系統の基本的な知識を再確認する。

【講義概要】

言語事項の確認、社会科系統（地理・歴史・政治経済）、理科系統（物理・化学・地学・生物）などの基礎知識、就職試験、SPIなどでも出題される早さ、通貨算、鶴亀算などを確認する。毎回、確認テストを行う。

回	授業計画及び学習の内容			
1	言語事項の確認1	社会科系統1	理数系統1	確認テスト1
2	言語事項の確認2	社会科系統2	理数系統2	確認テスト2
3	言語事項の確認3	社会科系統3	理数系統3	確認テスト3
4	言語事項の確認4	社会科系統4	理数系統4	確認テスト4
5	言語事項の確認5	社会科系統5	理数系統5	確認テスト5
6	言語事項の確認6	社会科系統6	理数系統6	確認テスト6
7	言語事項の確認7	社会科系統7	理数系統7	確認テスト7
8	中間試験			
9	言語事項の確認8	社会科系統8	理数系統8	確認テスト8
10	言語事項の確認9	社会科系統9	理数系統9	確認テスト9
11	言語事項の確認10	社会科系統10	理数系統10	確認テスト10
12	言語事項の確認11	社会科系統11	理数系統11	確認テスト11
13	言語事項の確認12	社会科系統12	理数系統12	確認テスト12
14	言語事項の確認13	社会科系統13	理数系統13	確認テスト13
15	期末試験			

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%	10%		10%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

四半世紀にわたり、東京電子専門学校において、表現技法、一般常識を担当してきました。また、他の専門学校で論文作成を、都の職業訓練校でビジネス関係の科目を教えてきました。

【教科書・参考文献】

授業時にプリントを配付する。

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		情報処理科/システム運用コース	2024		2年 後期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
一般教育 必修	講義	一般常識Ⅱ	唐戸 民雄	無	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

基本的な計算力、一般的な漢字の読み、社会科系統・理科系統の基本的な知識を再確認する。

【講義概要】

言語事項の確認、社会科系統（地理・歴史・政治経済）、理科系統（物理・化学・地学・生物）などの基礎知識、就職試験、SPIなどでも出題される早さ、通貨算、鶴亀算などを確認する。毎回、確認テストを行う。

回	授業計画及び学習の内容			
1	言語事項の確認1	社会科系統1	理数系統1	確認テスト1
2	言語事項の確認2	社会科系統2	理数系統2	確認テスト2
3	言語事項の確認3	社会科系統3	理数系統3	確認テスト3
4	言語事項の確認4	社会科系統4	理数系統4	確認テスト4
5	言語事項の確認5	社会科系統5	理数系統5	確認テスト5
6	言語事項の確認6	社会科系統6	理数系統6	確認テスト6
7	言語事項の確認7	社会科系統7	理数系統7	確認テスト7
8	中間試験			
9	言語事項の確認8	社会科系統8	理数系統8	確認テスト8
10	言語事項の確認9	社会科系統9	理数系統9	確認テスト9
11	言語事項の確認10	社会科系統10	理数系統10	確認テスト10
12	言語事項の確認11	社会科系統11	理数系統11	確認テスト11
13	言語事項の確認12	社会科系統12	理数系統12	確認テスト12
14	言語事項の確認13	社会科系統13	理数系統13	確認テスト13
15	期末試験			

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%	10%		10%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

四半世紀にわたり、東京電子専門学校において、表現技法、一般常識を担当してきました。また、他の専門学校で論文作成を、都の職業訓練校でビジネス関係の科目を教えてきました。

【教科書・参考文献】

授業時にプリントを配付する。

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム運用コース		2024		2年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
一般教育 必修	講義	基礎英語Ⅱ		Tope Salami	有	2単位 30時間	

【授業の到達目標及びテーマ】

1. Python English 2年目のクラスなので、英語を感覚で理解できるようにする。
2. Pythonプログラミングを英語で理解し、英語で説明できるようにする。

【講義概要】

90分授業を前半と後半に分け、前半は日本人講師による英語の考え方、伝え方、パイソン用語などを日本語で解説。後半は、英語母語の講師により実際にパソコンを使ったPythonプログラミング実習を英語で行う。

回	授業計画及び学習の内容
1	前学期の復習1
2	前学期の復習2
3	Choosing mnemonic variable names
4	Logical operators
5	Conditional execution
6	Alternative execution
7	Chained Conditionals
8	Nested Conditionals
9	Catching exceptions using try and except
10	Debugging
11	Make a game 1
12	Make a game 2
13	Functions
14	Function calls
15	Review

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	100%					100%

- (補足)
- ・成績は100点を最高とし、60点を及第点とする。
 - ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
 - ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

Tope Salami : IT関連会社運営、カナダ、サウジアラビア、日本で合計9年の英語関連、Pythonプログラミング関連の実務経験。生徒が授業に積極的に参加する雰囲気作りに情熱を注いでいる。

【教科書・参考文献】

Trinket - Python Book

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム運用コース		2024		2年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
一般教育 必修	講義	表現技法		唐戸 民雄	無	2単位 30時間	

【授業の到達目標及びテーマ】

前半では日本語についての再確認をする。些細なことでもかまわないので、自分たちの言葉についての意識を持って欲しい。後半は、社会人として仕事していく上での基本、ビジネス文書について学ぶ。

【講義概要】

普段使っている日本語を見直す。また、ビジネスの現場での文書の意義、働き、流れ等を確認する。社会人としての基本を身につける。毎回、日本語の語彙に関する確認の小テストを行う。その他、適宜、講義内容に関連する新たな話題を紹介することもある。大きくシラバスから逸脱することはないが、内容が少し変わることもある。

回	授業計画及び学習の内容
1	表現とは何か
2	表現本能 表現行為 言語について
3	日本語について1 他言語との比較 日本語の特徴 語彙の面から①
4	日本語の特徴 語彙の面から② 表記の面から など
5	日本語の文体 音声言語と文字言語の相違
6	文章の構成 横書き原稿用紙の使い方
7	読点の付け方 中間試験対策
8	中間試験
9	ビジネス文書 概説 問題演習
10	ビジネス文書 社内文書① 問題演習
11	ビジネス文書 社内文書② 問題演習
12	ビジネス文書 社外文書① 問題演習
13	ビジネス文書 社外文書② 問題演習
14	ビジネス文書 まとめ 確認演習問題
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%	10%		10%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

四半世紀にわたり、東京電子専門学校において、表現技法、一般常識を担当してきました。また、他の専門学校で論文作成を、都の職業訓練校でビジネス関係の科目を教えてきました。

【教科書・参考文献】

授業時にプリントを配布する。

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		情報処理科/システム運用コース		2024		2年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
一般教育 必修	実習	体育実習Ⅱ		情報処理科 担当教員	無	2単位 30時間	

【授業の到達目標及びテーマ】

運動や、課外活動、学園祭を通して、健全な身体と精神を育む。
学園祭は、各種催し物の企画、準備、実施、参加により、協調性を養います。
心身の健全な育成を目指しています。

【講義概要】

この授業は学園祭（準備2日間、学園祭2日間）の参加を以て、評価します。

回	授業計画及び学習の内容
1	
2	学園祭準備（1日目、2日目）
3	
4	
5	学園祭（1日目）
6	
7	
8	学園祭（2日目）、後片づけ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合					100%	100%

(補足)
・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

【教科書・参考文献】